

## 2024年9月8日（日）第二礼拝「主に叫び求めると」詩篇30章1～4節

主に叫び求める理由は何でしょうか？ 私たちにはどうしても解決しなければならない問題があって、それに対する切実な願いがあるからです。その切実な願いから主に叫び求める祈りが生まれます。この情熱の祈りは祈りの確信となります。

第一番目、叫び祈る時、主が私たちを引き上げてくださいます。敵であるサタンは盗人であり、その目的はただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためです。逆にイエス様は豊かにいのちを与え、癒してくださいます。また、主は私たちをよみ(死の穴)から引き上げてくださるお方です。死には二つあって、第一の死は肉体の死です。第二の死は神様と完全に分離する永遠の死(よみ)です。私たちが神様に叫び求めて、そのよみから救い出される時、私たちの内側には神様に対する心からの感謝が生まれてきます。そして私たちは賛美と栄光と力を神様に捧げる礼拝者へと変えられていきます。しかし、そのような恵みを体験した私たちが神様の御怒りを受けることがあります。それは神様の恵みを忘れてしまった時です。ダビデはいつも神様の恵みの中で勝利を得ていましたが、その成功を誇って神様の恵みを忘れてしまった時、主は御顔を隠され、彼は苦痛を体験しました。自分の力で成功したと錯覚して、神様の恵みを忘れてしまう時、突如として苦難や悲しみなどの試練が襲ってきます。ですから、私たちの人生の全ては神様の恵みであることを決して忘れてはいけません。

第二番目、神様の憐みを求めます。私たちは神様に近づき、神様の憐みを求める以外にありません。神様の御座は憐みの御座です。その御座にイエス様の血潮が注がれたので、誰でもイエス様の血潮に頼る者は神様の憐みの御座に近づくことができるのです。それは自分の努力によりません。母親と赤ちゃんが愛で繋がっているように、私たち人間は創造主である神様と憐みで繋がれています。赤ちゃんが泣くと、母親は心が騒ぎ即座に動きます。同様に神様はいつも私たちの祈りに答えてくださいます。悔い改め、悲しみ、嘆いて祈る夜も、翌朝には喜びに変えてくださいます。神様は悲しみを踊りに、荒布(悲しみ)を喜びの服に変えてくださり、私たちを真の礼拝者にしてくださるのです。

第三番目、放棄しない祈りです。二人の盲人がイエス様が近くを通りかかると聞いて、「ダビデの子よ。私をあわれんでください。」と叫び続けました(マタイ9:27～)。「ダビデの子」ということは、イエス様を王様の子、メシア、救い主として認めて叫び求めたのです。しかし、周りの人は彼を叱ったり、たしなめたりしました。これは祈りにおける城壁(ハードル)です。それは、その祈りが切実なものかどうかを判別するテストです。祈った後で祈った内容も忘れてしまうような祈りであってははいけません。この二人の盲人は自分たちの人生を変えるチャンスだと信じて、切実に主に叫びました。イエス様が「わたしにそんなことができるかと信じるのか。」と問われて、「そうです。主よ。」と答えた彼らに対して、イエス様は「あなたがたの信仰のとおりになれ」と言って癒されました。このように私たちが切実な思いや情熱をもって主に近づき祈る時に、主は答えてくださいます。アーメン！